

## 寺田寅彦記念館友の会 講演会の全体像

四宮義正

『榭』第100号で、それまでの掲載記事の概要を述べたが、多年にわたる講演会の全体像が分かりにくかったように思う。春（総会）と秋（研究会）での講演会を定着させたのは前会長の山本健吉さんなので、それ以降のリストを作成し、活動を振り返ってみた。

### 友の会 講演会実施記録

年	月	日	曜	講 師	演 題	榭	
2011	H23	4	17	日	武市 智	災害から身を守る	62
		11	6	日	副田謙二	現在の学校事情と「友の会」に望むこと	63
2012	H24	4	29	日	木村昌三	地震と災害について	65
		11	17	土	石田多絵・竹内満里子・永野美智子・小松徳子・小松郁子	オルガン演奏・朗読・紙芝居・愛唱歌と歌曲・ 「三毛の墓」合唱・座談会	66
2013	H25	4	21	日	依岡隆児	寺田寅彦の文学的世界	68
		11	24	日	山田 功・恒石直和・四宮義正・伊東喜代子・山本健吉	関弥生様を語り寺田寅彦を忍ぶ	70
2014	H26	4	13	日	四宮義正	夏目漱石と寺田寅彦—熊本時代を中心にして—	71
		11	29	土	永橋禎子	寺田寅彦の所蔵資料について（文学館）	73
2015	H27	4	19	日	松尾宗次	寺田寅彦の肩の上（*1）	74
		12	12	土	神田健三	寅彦と宇吉郎—師弟の交流—（文学館）（*2）	75
2016	H28	4	17	日	山田 功	寺田寅彦作品と国語教科書（*3）	76
		12	4	日	大野良一	寺田寅彦先生の科学者の眼に学ぶ（*4）	78
2017	H29	4	15	土	柏木 潤	寺田寅彦と熊本	79
		10	22	日	台風で中止		
2018	H30	4	22	日	西森良子	なぜ寺田寅彦を上演したか（*5）	82
		7	24	火	寺田寅彦銅像除幕式（オーテピア）		83
		7	25	水	銅像除幕式記念イベント（記念館）		83
					宮 英司	寺田寅彦銅像物語（銅像を建てる会の経緯）	
					田村和枝	オルガン演奏	
					大野良一	寺田寅彦銅像を制作して	
		10	25	木	鎌倉漱石の會との交流会		84
山本健吉	寺田寅彦ゆかりの地見学（バス使用）						
四宮義正	寺田寅彦と高知（文学館）						
				川島禎子	「寅彦先生に学ぶ天災展」展示解説（文学館）		

2019	H31	4	21	日	楠田純一	オンライン「寅の日」の取り組みを通して	85
	R元	11	24	日	伊東喜代子	寺田寅彦邸の花に想う	87
2020	R2	4	19	日	コロナ禍で中止		
		11	15	日	コロナ禍で中止		
2021	R3	4	18	日	竹崎邦博	竹崎音吉と寺田寅彦の逸話（*6）	91
					コロナ禍で中止		
2022	R4	4	24	日	宮 英司	寺田寅彦と坂本龍馬	94
		10	23	日	四宮義正	寅彦ゆかりの地・ウォーキング	96
2023	R5	4	23	日	野村 学	「寅彦の見た風景」を探して —寅彦少年のコスモロジー—	97
		10	22	日	佐藤妙子	寒月君と私 —如何にして私は寅彦にたどり着いたか	98
2024	R6	4	21	日	山田 功	X線結晶学の祖 寺田寅彦がした実験をみんなで考える	100
		10	20	日	市川浩司	「連句の方則」	102

[注]

○右端欄の数字は講演内容が記録された『櫛』の号数。

（\*1）講演内容は『櫛』48、57、71号に投稿されていた。

（\*2）2015年12月5日～2016年1月31日、高知県立文学館で「寺田寅彦没後80年記念 親愛なる寺田先生～師・寺田寅彦と中谷宇吉郎展～」が開催され、友の会は12月13日の「雪と氷のふしぎ実験 宇吉郎の雪と氷の研究を実際に体験してみよう！」に協力した。

（\*3）4月14日発生の熊本地震で全ての交通が途絶し、熊本市在住の柏木さんが移動できなくなったため、急遽山田さんが講演した。柏木さんは翌年春に講演した。

（\*4）翌年の2017年4月16日（日）に仁淀川町池川のアトリエを訪問し、石膏像を見学した。

（\*5）西森さんは2017年10月に講演予定だったが、台風のため翌年春に延期となった。

（\*6）竹崎さんは2020年4月に講演予定だったが、コロナ禍で延期を重ねての実施となった。

このリスト以前にも総会の時などに、講演会は開催されていたが、山本さんが会長に就任して以降は几帳面に年2回開催されている。オルガン演奏、紙芝居、「三毛の墓」合唱、関弥生さんを偲ぶ座談会、寺田寅彦銅像除幕式関連イベント、「中谷宇吉郎雪の科学館友の会」や「鎌倉漱石の會」との交流など特別な行事が沢山あった。一連の流れのなかで、熊本地震、台風、コロナ禍といったアクシデントに見舞われて苦労したことが改めて思い起こされる。

内容をみると、地元高知に密着したもの、教科書、熊本（五高）、銅像制作、演劇、師である漱石関連、寅彦の科学論文の解説、連句など非常に変化に富んでいるし、演者の実践から生まれたテーマが多く、時代を経ても、まだまだ寅彦が広く興味を持たれていることがうかがわれて楽しくなる。

講師のほとんどが友の会の会員であり、かつこれだけ長く継続され、内容が記録されていることは稀有なことだと思う。人選や依頼と講演の準備における会長のご苦労が推し量られる。今後も引き継いでいかなければならないと心するものである。